



きゅつとぎゅつた

小さなおてのらつおつれ



生まれて間もない赤ちゃんの手の平に人差し指をあてると、小さな小さな手でぎゅつと握ってくれたという経験をした事がある方も多いのではないかと思いません。

赤ちゃんにすれば無意識に手にふれたものをつかんでいるのですが、つかんでもらった方はかわいくってキュンとした気持ちになるでしょう。

我が子ならなおさらのこと、やっと出会うことができた赤ちゃん。その手をしっかりとつかんでくれた時に、かわいい、いとおしい、言葉に表せないほどのうれしさでいっぱいになるでしょう。握ってくれたその手の温かさや柔らかさまでもが自分の手の記憶に残り、大切ないのち

を実感したことだと思えます。

でも、そんな気持ちもつかの間で、慣れない赤ちゃんとの暮らしは、泣いている理由が分らなかつたり、思い描いていた暮らしとはかけ離れたことだったり、疲れたり落ち込んだりすることもあるかもしれません。

そんな時こそ「ぎゅつと握ってくれた小さなおて」を思い出して「うれしい気持ち」を充電して下さい。それでも充電出来ない時は、できるだけ早めに「手伝つて」と、周りの人に助けを求めましょう。